

平成30年度事業報告書

公益社団法人 被害者サポートセンターおかやま (VSCO)

平成30年度事業の状況

1 はじめに

日本財団預保納付金の助成を受けて、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター立ち上げ準備のために、平成28年7月に「性犯罪被害者等支援センターおかやま」として、専用電話相談室を岡山県開発公社ビル1階に開設した。しかし、その助成が30年度から中止となったため、1階から6階の相談室（事件・事故の被害相談）へ移動するとともに相談事業の見直しを行った。相談員は2人2班体制から1人1班に、相談時間も10時～16時に縮小し、事件・事故の被害相談の犯罪被害相談員と連携を図りながら行うこととした。同時に事務局も1階から6階に移転した。

約2年間、性犯罪被害者等がいつでも安心して相談ができるよう、相談時間を延長（平日21時まで）して支援の拡充を図ってきたが、本年度から（公社）全国被害者支援ネットワークが全国共通ナビダイヤルを開設したことにより、結果として年末及び年始を除く22時まで相談に応じる体制づくりができた。

なお、赤い羽根共同募金の「地域ささえあいプロジェクト」に参画しての募金活動、市町村からの補助金等の増額により資金調達計画（財政基盤確立）も推進することができた。

2 役員等

代表理事	平松敏男
業務執行理事	嶋村 稔、難波 光、
理事	天野勝昭（～8月31日）、若林久義、東 隆司（～6月23日）、 森 陽子（～6月23日）、中島豊爾、真邊和美、今村恵美子（6月23日～）、 松村正基（6月23日～）、川野 豊（6月23日～）、 加藤裕司（6月23日～）、
監事	森本治雄、澤畑優太（6月23日～）
顧問	村田吉隆、岡崎 彬、皆木英也、松田 久
協力スタッフ	精神科医：堀井茂男、来住由樹 弁護士：14人
事務局長	藤原一徳
事務局長代理	山崎悦子
事務局員	片山 文、岡本知恵子（8月1日～平成31年2月28日）
支援員	（平成31年3月1日現在）

犯罪被害相談員6名、犯罪被害者等給付金申請補助員4名、電話・面接相談員25名、犯罪被害者直接支援員17名、自助グループ支援員4名、

3 主な事項

(1) 平成30年6月23日 平成30年度定時社員総会

平成29年度事業を報告し、決算が承認された。理事9人（嶋村 稔、難波 光、若林久義、中島豊爾、真邊和美、今村恵美子、松村正基、川野 豊、加藤裕司）が選任された。総会後は、「被害者支援の現状について」と題して、(公社)全国被害者支援ネットワーク理事・(公社)広島被害者支援センター専務理事兼事務局長 岡野政義氏の基調講演会を行った。

なお、理事会は月1回開催した（4月23日、5月15・28日、6月14日・23日、7月11日、8月9日、9月10日、10月11日、12月13日、1月15日、3月12日）。6月23日の理事会において業務執行理事に嶋村 稔、難波 光理事を選定した。公益社団法人移行により、理事会の承認事項が多くなり、財政基盤づくり、広報啓発活動、性犯罪被害者のための支援活動等活発に議論をし、議決している。

(2) 会員の推移

正会員	平成30年4月1日現在	個人108名、団体5団体
	平成31年3月31日現在	個人114名、団体4団体
賛助会員	平成30年4月1日現在	個人209名、団体58団体
	平成31年3月31日現在	個人243名、団体60団体

(3) 表彰状・感謝状の贈呈

感謝状の贈呈：日時	平成30年6月23日（平成30年度定時社員総会）	
受賞者	正会員（個人1人）	正会員歴10年
	賛助会員（個人7人）	賛助会員歴10年
	多額寄付者（個人1人）	
	多額寄付者（団体7）	
	事業推進協力者（団体1）	

4 主な事業及び活動内容

(1) 相談・直接支援事業、普及啓発等の事業について

平成30年4月1日、岡山県警察本部と平成30年度被害者相談・直接支援等業務委託契約を締結。岡山県から平成30年4月12日に犯罪被害者等支援のための普及啓発・人材育成業務、5月21日に性犯罪被害者への支援に関する情報提供・普及啓発業務を受託。

実績は次のとおり

ア 相談事業

実績は、別紙「被害者支援活動の実施状況」のとおり

イ 直接支援事業

(ア) 実績は、別紙「被害者支援活動の実施状況」のとおり。

(イ) 直接支援事業の一環として性暴力被害者の会を11回した。

(ウ) 犯罪被害者支援金については、
VSCO犯罪被害者支援金の支給11件

ウ 広報啓発事業

(ア) 岡山市との共催事業

- ・平成31年2月9日(土) ピュアリティまきび 参加94人
講演 「歩と生きる」 ～山口高専生殺害事件遺族(母)の想い～
講師 中谷加代子氏
(犯罪被害者遺族・山口被害者支援センター直接支援員)

報告 「被害者支援の現状について」
報告者 VSCO 支援員 家野昌子

ミニコンサート

岡山市消防音楽隊 ピーチフェアリーズ

「いのちと魂のメッセージ」のパネル展示

(イ) 岡山県委託事業

- ・9月29日(土) ピュアリティまきび(岡山市) 参加90人
講演 「性犯罪被害に遭うということ」
～被害者の私が自分らしく生きる選択～
講師 早川恵子氏(性暴力被害者)

報告 「被害者支援の現状について」
報告者 VSCO 支援員 家野昌子

「いのちと魂のメッセージ」のパネル展示

(ウ) 岡山県警察委託事業

- ・11月25日(日) ピュアリティまきび(岡山市) 参加400人
報告 大学ボランティア「あした彩」による活動
講演 「いのちの重さを見つめ続けた17年 ～愛しみと共に生きる～」
講師 本郷由美子氏

(大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件被害者遺族)

あした彩音楽隊「Over the Rainbow」による演奏

「いのちと魂のメッセージ」のパネル展示

(エ) その他の活動

- ・機関誌「いつでもそばに」第14号の発行。
- ・ホームページで、「被害にあった方へ」「性犯罪にあった方へ」、「活動状況」、「今日のVSCOは?」、「自治体の被害者支援」、「会員・組織、機関誌」、「VSCOの講師派遣制度」、「VSCOの支援を受けて」、「VSCOを支援する会」、「VSCOのテーマソング一窓の外には一」、「入会のお願い」、「寄附のお願い」、等々を掲載
- ・啓発チラシ配布等で、県民や被害者に向けて、フォーラムの開催や電話相談等

を紹介

- ・関係団体や関係機関との連携として、県産婦人科医会及び加盟医療機関との連絡会、おかやま被害者支援ネットワーク会議等へ参加
- ・関係団体（者）への広報啓発として、ライオンズクラブ・町内会への講話。養護教諭研修会場、専門学校、市町村役場等へ機関誌を持参しV S C Oの活動を紹介

(2) 支援員等養成研修事業

ア 支援員養成基礎講座・中級講座（岡山県共同募金会の助成を受けて実施）

開催回数：基礎講座6回、中級講座6回

受講者数：基礎講座44名(大学生35名・一般9名)、中級講座5名

修了者数：基礎講座30名(大学生25名・一般5名)、中級講座3名

新規支援員登録者数：2名

若者が被害者支援の大切さを理解し、ボランティア活動を推進するシステムづくりのため、県内の大学生に受講を呼び掛けたところ、山陽学園大学、美作大学、環太平洋大学、ノートルダム清心女子大学、岡山大学、岡山県立大学の学生が基礎講座を受講し、内25人に修了書を交付した。

【基礎講座】

開催月日	内 容	参加人数
5月19日	開講式（代表理事挨拶・自己紹介） 犯罪被害者支援の歴史 講師：平松敏男（弁護士） 「被害者サポートセンターおかやま」の活動内容等 講師：V S C O犯罪被害相談員	学生24人 一般8人
5月26日	模擬裁判（岡山商科大学） 講師：平松敏男（弁護士）	学生13人
6月2日	性犯罪被害者のサポート 講師：被害者Cさん・Cさんの夫 女性の被害（DV等）の対応について 講師：岡山男女共同参画推進センター	学生25人 一般7人
6月8日	刑事裁判の傍聴と解説（岡山地方裁判所） 講師：平松敏男（弁護士）	学生25人 一般7人
6月16日	消費者被害と消費生活センターの働き 講師：岡山県消費生活センター 経済的被害の回復 講師：三好英宏（弁護士）	一般7人

6月30日	児童虐待と児童相談所の働き 講師：岡山市こども総合相談所 ストーカー被害者のサポート 講師：県警本部生活安全部子ども女性安全対策課	学生 24 人 一般 9 人
7月14日	交通事故被害者のサポート 講師：平松敏男（弁護士） V S C O 犯罪被害相談員 最愛の家族の命を奪われた遺族の立場から 講師：被害者遺族（加藤さん） 閉講式（代表理事挨拶・学生への修了書交付）	学生 18 人 一般 5 人

【中級講座】

開催月日	内 容	参加人数
7月28日	開講式（代表理事挨拶・受講者の一言コメント） 特別講演「支援者のストレスとサポート」 講師：関根 剛 （大分県立看護科学大学准教授） （大分被害者支援センター副理事長）	一般 6 人
8月25日	V S C O について・被害者支援とは（DVD視聴） 電話相談の基礎 自分自身を知りましょう（心理テスト） 講師：V S C O 研修委員	一般 5 人
9月 日	検察庁見学・裁判傍聴	一般 3 人
9月15日	電話相談の実際 ～ロールプレイを通じて～ 講師：V S C O 研修委員 被害者支援を考える～精神科医の立場から～ 講師：来住由樹 （岡山県精神科医療センター院長）	一般 5 人
9月22日	直接支援の実際（1） 講師：V S C O 研修委員	一般 2 人
10月6日	直接支援の実際（2）（3） 講師：V S C O 研修委員 閉講式（代表理事挨拶・修了書交付）	一般 6 人
10月27日	面接 講師：堀井茂男 （公益財団法人慈圭会 慈圭病院院長）	

成果と課題

受講者総数44人中、県内6大学より35人の大学生が初級（基礎講座）を受講し25人に修了証を交付した。若者が被害者支援の大切さを理解しボランティア活動を推進するシステムづくりのきっかけとなった。

一般受講者は9人であったが、3人が初級（基礎講座）と中級講座の全過程を修了した。その内2人を支援員として採用し11月から支援員補助として電話相談に携わっている。人材育成には数年を要するため、支援員の育成が重要課題である。支援員の採用人数は少数ではあるが、支援員候補者発掘のためには、毎年養成講座を行っていく必要があるとあり受講者の募集を広く呼びかける必要がある。

受講した学生の感想

- ・被害者として今回の模擬法廷に参加したのですが、法廷での緊張感、裁判員裁判の流れなど大まかに経験することができて良かった。自分は法曹界に進むわけではありませんが良い経験になったと思います。
- ・途切れることのない支援（身体・精神・経済・その他）、被害にあうことで、今までの人間関係がくずれてしまう可能性があることがビデオからも講義でも分った。適切な支援を行うためには、今回のような育成講座を行うことや、もっと活動があることが広まることの必要性も感じた。他にも、制度の充実や、世間の理解など必要なことは山ほどあるだろうが、一番早く動くことができるのはサポートセンターなどの組織なのではないかと考えた。
- ・被害者の方の意見を尊重し、精神的な傷が一番大きいと思うのでそこを少しでも回復できるように色々な機関と連携していくことが必要だと思う。被害者の支援だけでなく、被害者がでないような防犯も必要だと思う。
- ・一番必要だと思うのは、寄り添う支援だと思いました。共感や傾聴などの寄り添う支援がないと、せっかく話をするために、また辛い思いをしてしまい、2次被害が生じる可能性があると思ったからです。また、他職種や他機関との連携も、切れ目のない支援を継続的に行うためには必要だと思いました。

一般受講者の感想

- ・VSCOのパワーポイントでもありましたが、様々な機関が連携して被

害者を支援していくので、その一部を担っている行政の業務を再認識できた。また、行政職員は数年で異動するため、だれが来てもサポートできる体制を構築しないといけないと思った。

イ 支援員継続研修（赤い羽根共同募金の助成を受けて実施）

実施日：毎月第2土曜日16：30～18：30 概ね毎回15人が参加

回数：11回

活動中の支援員を対象に、外部講師3人（県外2・県内1）に依頼し、専門的な指導を受けることができた。

【支援員継続研修】

開催月日	基礎知識	事例検討・講義等	参加
4月14日	①被害者参加制度と損害賠償命令 ②被害者参加人のための国選弁護制度	ロールプレイ	14人
5月12日	①不起訴記録の閲覧 ②検察審査会への申立 (その1)	ロールプレイ	16人
6月9日	①優先傍聴席の確保 ②遺影の持ち込み ③被害者の氏名の秘匿 (その1)	事例検討	14人
7月28日	特別講演「支援者のストレスとサポート」 講師：関根 剛 (大分県立看護科学大学准教授) (大分被害者支援センター副理事長)		12人
9月8日	①被害者参加制度と損害賠償命令 ②被害者参加人のための国選弁護制度	研修報告	7人
10月6日	事例検討「広域連携支援について」 講師：柳原ひとみ (NNVS認定コーディネーター) (広島被害者支援センター犯罪被害相談員)		11人
11月10日	①受刑中の処遇状況や出所情報などの通知 ②再被害の防止	テキスト（基礎知識関連事例—事例検討—） 上半期研修報告	16人

12月8日	①被害届、告訴、告発 ②被害者連絡制度 ③被害者等通知制度	①他センターとの共同支援 事例検討 ②秋期全国研修会報告	10人
1月12日	①全国ネット支援金 ②VSCO支援金 ③VSCO緊急支援金 ④犯給金、その他		19人
2月2日	①不起訴記録の閲覧 ②検察審査会への申立 (その2)	①テキスト(知識編第4章 2. 検察庁による被害者支援	15人
3月9日	①優先傍聴席の確保 ②遺影の持ち込み ③被害者の氏名の秘匿 (その2)	①テキスト(知識編第3章 1. 刑事裁判の流れと被害者との関わり 2. 裁判員制度と公判前整理手続き ②基礎知識関連事例 事例検討	15人

ウ 全国ネットワーク等主催の研修(日本財団の助成を受けて実施)

4月29・30日: 性暴力救援センター第5回全国研修会(大阪) 1人参加

8月8・9日: 中四国ブロック上半期質の向上研修会(島根) 3人参加

9月23・24日: 性暴力救援センター全国連絡会議(大阪) 2人参加

11月12・13・14日: 全国被害者支援フォーラム秋期大会・全国研修会
(東京) 2人参加

11月11日: 性暴力被害者支援を考える講演会(福岡) 2人参加

1月26・27日: 中四国ブロック下半期質の向上研修会(徳島) 5人参加

2月1日: シンポジウム「犯罪被害者がのぞむ支援をどの地域でも」

(広島) 3人参加

(3) 財政基盤の確立と事務局体制の強化

昨年まで、日本財団の助成を受け、先駆的なファンドレイジング活動としてコンサルタントの指導を受けた経験を生かし、賛助会員、支援自販機の設置、募金箱の設置拡大及びホンデリング、赤い羽根共同募金の推進に努めた。当初は、賛助会員の獲得を大目標としていたが、経済的な景気低迷もあり、事業所の賛助会員加入は困難な状況であった。しかし、市民のつどいやフォーラム等では、当センターの活動説明を熱心に聞いてくださり、被害者支援の輪が広がっている手ごたえがあった。正会員個人6人増・団体1減、賛助会員個人34人増・団体2増となった。

寄付型自動販売機については、企業等に設置依頼を積極的に行ってきた。平成2

5年度3台(48,663円)であったが、県警察や会員・建設会社・自販機メーカーの協力等もあり96台(本年度6台新設)増設することができた。寄付金額2,405,686円(昨年より18,718円減)であった。

ホンデリングについては、気軽に協力してもらえる寄付行為と位置づけ、フォーラム会場での配布資料に折り込む等工夫して協力を依頼した。5年目の事業として、31件70,668円(昨年より4,478円増)の寄付があった。

募金箱については、3年前に88台作製して、現在までに59台設置している。1月～3月の間に募金箱(28か所)について回収し、136,412円(昨年より、45,997円の減)の募金を得た。

県共同募金会のテーマ募金は、100万円を目標として募金活動を行ったが、目標額を大きく上回る210万円の募金をいただくことができた。この助成金は、支援員養成講座と性犯罪被害者等支援センターおかやまの運営費に充当した。

補助金・助成金の獲得については、本年度2市(新見市・備前市)から新たにいただくことができ、市町村の人口減少もある中、9市10町2村から総額1,677,228円の補助金を受けた(昨年より122,420円増)。この補助金は、相談事業、養成研修事業、広報啓発事業に充当した。

5 今後の課題

公益社団法人として7年目を迎えるが、今後も引き続き財政基盤の確立及び事務局を含めた支援体制の充実強化に向けて人材の確保を図る必要がある。

また、県民にVSCOの存在と活動内容を周知し、1人でも多くの被害者等に認知してもらえよう広報啓発の強化を図る必要がある。

更には、県警察及び関係機関等との連携の強化を図るとともに、行政が関与する「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」の開設に向け関係機関へ要望する必要がある。